令和５年度　教育事業実施報告

国立沖縄青少年交流の家

１　教育事業名　　「とかしきサンゴ学習」

２　ね　ら　い　　自然豊かな島で暮らす子ども達が、身近にあるサンゴに学び、海で観察し、専門家から新しい知識を得ることにより、サンゴをはじめ身の回りの素晴らしい環境について改めて考える機会を設定することで、周囲の恵まれた自然環境に気がつき、環境保護や島を愛する心を育むことにつながることをねらいとする。

３　期　　日　　令和５年１０月１６日（月）　１３：４５～１５：３５
１７日（火）　１３：００～１５：３０
１９日（木）　１３：４５～１５：３５　　３日間

４　場　　所　　国立沖縄青少年交流の家

５　参加人数　　渡嘉敷中学校１年生　１３名

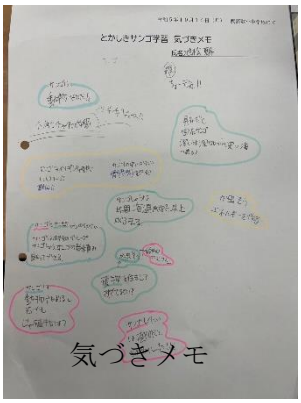
６　講　　師　　小渕　正美 氏（国立沖縄青少年交流の家　総務係）
「サンゴについての基礎知識」　「スノーケリング指導」　「振り返り」
鈴木　英範　氏（国立沖縄青少年交流の家　企画指導専門職）
「スノーケリング指導」

７　プログラム　　１６日（月）　講義やゲームを通して、身近な存在であるサンゴについての基礎知識を学ぶ。
１７日（火）　前日に学んだ現象が確認できるポイントを実際に観察する。
１９日（木）　観察した内容を写真等で振り返り、確認を行い、渡嘉敷のサンゴの現状から自分達ができることを考える。

８　事業の様子

サンゴについて

実物の観察



気づきメモ

テリトリーウォーズ①

テリトリーウォーズ②

ゲームの結果から考察

スノーケリング準備

アリガーへの船にて

アリガーでのスノーケリング

サンゴの様子

観察結果から振り返り

11　参加者の声（アンケートより）

・・知っているようで知らないことをたくさん知ることができた。
・わからないことも多かったけどわかりやすい説明で新たなことをたくさん知ることが出来た。
・クイズやテリトリーウォーズでサンゴについて楽しく学ぶことができた。
・こんなに広大なサンゴを実際に見たことがなかったので感動した。
・サンゴのケンカを実際に見ることができて良かった。
・次は海のいろいろな生物についてやって欲しい。

担当者所見

（1）　成果

・渡嘉敷島に住みながら海と関わる機会の少ない生徒にとってアリガーでのスノーケリングなど貴重な経験をする機会を設定することができた。
・講師の小渕氏の幅広い経験と知識により、生徒のサンゴについての知識の有無に関わらず、生徒それぞれに学びを提供することができた。
・テリトリーウォーズによりゲーム形式で自然にサンゴの特性、生態をとらえさせることができた。
・次は渡嘉敷島の海の生物について学びたいといったような身近な自然に興味を抱く生徒の姿を見ることができた。
・初日の学習で学んだことを２日目のスノーケルで実際に観察ができたこと、また３日目の学習でそれを振り返りできたことにより学びにつながりが生まれた。

（2）課題

・前年度の観察結果との比較など年度をまたいだ継続的な活動として実施できると良い。
・年度当初は、６月あたりでの開催を予定していた。しかし、学校行事や本施設の事業、研修支援等に都合により、日程を延期して実施した。秋から冬にかけての海の不安定な状況をを考慮するとやはり６月あたりの実施としたい。
・国立公園に指定されている慶良間諸島にある学校としてさらに海やサンゴを身近にとらえてもらうためにも季節ごとや学期ごとなど定期的に交流の家と連携した活動を取り入れていきたい。そのためにもさらに中学校との連携を密にし、生徒、教師ともに過度の負担にならないよう開催時期、内容を検討する必要がある。